

平成30年度 第2回大分市外部行政評価委員会における主な意見①

※平成30年10月26日開催

3. 「事務事業評価(地方創生関連事業)」について

	事務事業名	所管課	主な意見
1	歩行者天国実施事業	商工労政課	<p>人口47～48万人規模の大分市にあっては、中心市街地を核とした本事業の取組は非常に有効と思われるが、現在の実施状況をみると単なる賑わいづくりのイベントと感じられる部分もあり、改善の余地があると思われる。歩行者天国単体ではなく、「夢色音楽祭」や「食と暮らしの祭典」など、認知度の高い既存のイベントと連携するのは有効ではあるが、費用は適正か、事業の目的である中心市街地の活性化に効果があるかといった点を十分に検証することが重要であり、その上で今後の方向性を検討していくなど、目的、効果、費用の関係をもう少し整理する必要がある。</p> <p>また、実施に当たっては、店主や経済界、公共交通事業者などの協力が不可欠であることから、取組への意見聴取と自助努力意識の醸成にも努める必要がある。</p>
2	アートレジオン推進事業	企画課	<p>本事業は、大分市内周辺地域である佐賀関、野津原、大南地区にアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動を通じて文化芸術の振興を図るとともに、地域住民との交流を促進することで地域の活性化につなげる事業であるが、佐賀関地区の旧大志生木小学校のアトリエ活用では地域と住民との協働でイベントが実施され、約250名が参加して賑わい、また、30年度に入って地域おこし協力隊1名を含む4組のアーティストが活動するなど、順調に事業が実施されていることがうかがえる。今後の展開として、野津原・大南地区においても、佐賀関地区同様、地域おこし協力隊や地域住民との連携のもと地域特性を活かした文化芸術の振興に取り組んでもらいたい。</p> <p>重要業績評価指標(KPI)の目標値は達成しているものの、取組効果を検証するには十分なものではない。事業費も大きいことから、正当な評価を行うためにも、翌年以降は事業内容や目的に沿った目標値も併せて示していただくことを要望する。</p>